

水稻の「縞葉枯病」に注意しましょう

平成 24 年4月にヒメビウンカの発生状況とイネ縞葉枯病ウイルスの保毒状況の調査を行ったところ、結果は下記のとおりになりました。

(1)4月 17～23 日に5地点の調査水田内及び畦畔で、ヒメビウンカの発生状況を調査したところ、網振り 20 回振り当たりヒメビウンカ成虫捕獲数は 1.2 頭でした。

(2)捕獲したヒメビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率をラテックス凝集法により調査したところ、地点によりばらつきはありますが、府内平均の保毒虫率は9%と昨年に次ぐ水準となっています(表及び参考参照)。

(3)以上のことから、今年も昨年同様、縞葉枯病の発生が増える可能性があります。ヒメビウンカの発生初期に防除をするなど、縞葉枯病の予防に努めましょう。

〈防除対策〉

○ヒメビウンカの防除を徹底する。本田初期の感染を防止するため、移植当日にヒメビウンカの防除薬剤を育苗箱施用する。

○育苗ほへのヒメビウンカの飛び込みを防ぐため、イネ科雑草地付近での育苗を避ける。

○水田、畦畔の除草を田植前までに行う。

○窒素過多は縞葉枯病の発生を助長するので適正な肥培管理を行う。

○イネ縞葉枯病とは

縞葉枯病はヒメビウンカによって媒介されるウイルス病で、本田初期に発生するケースが多く、新葉が細くなって巻いたまま垂れ下がって枯れ上がり、その症状から「ゆうれい病」とも呼ばれています。近年、西日本各県で発生が増えており、大阪府内でも発生が確認されています。また、幼穂形成期以降に感染すると、葉に黄緑色の斑紋や主脈に平行して黄緑色のたて縞ができ、これら発病した株の穂は多くの場合、出すくみとなります。

ヒメビウンカのウイルス保毒は、老齢幼虫及び成虫時に起こり、経卵伝染します。

(表)平成 24 年 4 月のヒメトビウンカの発生状況とそのイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率

調査地点	20 回振り当たりヒメトビウンカ成虫捕獲数 (頭)	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
河南町	1.4	7	14.3
富田林市	0.7	9	0
堺市	0.8	12	8.3
和泉市	2.5	25	12.0
岸和田市	0.6	3	0
合計	1.2	56	9.0

(参考)平成 16～24 年までのヒメトビウンカ検定虫数及び保毒虫率

	検定虫数(頭)	保毒虫率(%)
平成 16 年	111	0
平成 17 年	-	-
平成 18 年	25	0
平成 19 年	-	-
平成 20 年	61	0
平成 21 年	11	0
平成 22 年	0	-
平成 23 年	106	17.0
平成 24 年	56	9.0

◎防除薬剤については、

●Web 版大阪府病虫害防除指針

(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>)

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)
で確認してください。